

病態解析学特別講義		選択	通年	1単位
担当研究分野	病態生理学、環境衛生化学、組織再生学、毒性学、微生物学、生化学、先端生命科学			
到達目標・目的	病態発症機序を生化学的・分子生物学的に理解するため、生理活性物質の細胞機能調節について理解を深めるとともに、情報伝達の分子機構および生理機能について学び、健康、老化、生活習慣病、がんに対する高度な知識を修得する。また、環境や食品と健康との関わりについて視野を広げることも目標とする。さらに、代表的疾患の病態を臨床所見と対応して解説し、医薬品の適応や各種治療法の評価について最新のトピックスをとともに考察する。			
受講心得・準備学習等	講義・演習に積極的に参加し、課題については予め調査し、演習においては、自分の見解を述べるようにすること。			
事後学習・復習等	各研究分野における物事の捉え方を学び、自分自身の研究との関連性について考察すること。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講義・演習
時間	研究分野	講義・演習内容
130分	病態生理学	造血器腫瘍、骨肉腫等の腫瘍疾患の病態・腫瘍発生機序等について論じる。
130分	環境衛生化学	生体内外の生理活性物質について理解を深め、健康、老化、病気、治療薬、予防薬との関連性について論じる。
130分	組織再生学	細胞外マトリックスの異常と疾患等、生体を構成するタンパク質や遺伝子の役割について論じる。
130分	毒性学	日常生活で接触・吸収しているかもしれない化学物質がもたらす影響（毒性）や、医薬品がもたらす悪影響（副作用）について論じる。
130分	微生物学	食中毒細菌などの微生物による人の健康危害防止に関連する研究、感染防御のメカニズムに関する研究について論じる。
130分	生化学	糖鎖とその調節酵素に着目し、癌・免疫疾患・感染症等における役割を論じる。
130分	先端生命科学	神経可塑性、タンパク質分解機構、エピゲノムについて理解を深め、疾患や創薬との関わりについて論じる。

成績評価の方法	それぞれの研究分野においては、ディスカッションまたは発表内容等について複数の教員で評価するが、必要に応じてレポートを課す。 各研究分野からの評価を総合し、判定する。
成績評価の基準	ディスカッションへの取り組み方、課題に対する準備等を総合的に評価する。
教科書	なし（必要な資料を配付する。）
参考書など	
その他	

※上記内容は、一部変更となる可能性があります。